

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社あらた
【英訳名】	ARATA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 須崎 裕明
【本店の所在の場所】	東京都江東区東陽六丁目3番2号
【電話番号】	03 - 5635 - 2800 (代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役 副社長執行役員 鈴木 洋一
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区東陽六丁目3番2号
【電話番号】	03 - 5635 - 2800 (代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役 副社長執行役員 鈴木 洋一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間		自平成28年 4月1日 至平成28年 12月31日	自平成29年 4月1日 至平成29年 12月31日	自平成28年 4月1日 至平成29年 3月31日
売上高	百万円	539,598	559,985	704,610
経常利益	百万円	6,393	7,424	7,842
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	百万円	3,881	5,205	4,863
四半期包括利益又は包 括利益	百万円	5,175	6,589	6,241
純資産額	百万円	58,100	70,198	59,613
総資産額	百万円	255,739	258,133	222,974
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	円	263.26	331.58	330.95
潜在株式調整後1株当 たり四半期(当期)純 利益金額	円	236.98	309.17	294.89
自己資本比率	%	22.7	27.2	26.7

回次		第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自平成28年 10月1日 至平成28年 12月31日	自平成29年 10月1日 至平成29年 12月31日
1株当たり四半期純利 益金額	円	99.70	119.88

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるジャペルパートナーシップサービス株式会社がペットライブラリー株式会社の全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または、締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループにおける財政状態および経営成績の分析は、以下のとおりであります。

文中の将来に関する事項については、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間における経営環境は、好調な株価や企業の好業績等により、雇用情勢は改善しており、景気は緩やかな回復基調にあります。

今後は東京オリンピックに向けたインフラ建設等の需要増加や、海外経済の回復を背景に輸出増加も見込まれることから、景気の持ち直し傾向が続くことが予想されるものの、相次ぐ自然災害や原材料価格の高騰、慢性的な人手不足、北朝鮮情勢などの地政学的リスクや米国トランプ大統領の政権運営などの影響等から先行き不透明な状況で引き続き推移することが予想されます。

このような中、当社は3年後の2020年3月期に売上高7,600億円、経常利益100億円、親会社株主に帰属する当期純利益60億円を目標とする中期経営計画を策定し、達成に向けて各種施策を実施しております。

中期経営計画の基本方針は1.成長戦略を描き続ける 2.未来への布石を打つ 3.経営基盤の更なる強化としており、10年・20年先の「あるべき姿」を見据えた、営業・物流・システム・グローバル化等への積極的な投資と環境変化への対応力のある組織体制の実現に向けて戦略を立案し積極的に取り組んでまいりました結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は559,985百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は6,927百万円（前年同期比15.1%増）、経常利益は7,424百万円（前年同期比16.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,205百万円（前年同期比34.1%増）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は258,133百万円となり、前連結会計年度末と比較して35,158百万円の増加となりました。

資産の部では、流動資産は187,707百万円となり、前連結会計年度末と比較して34,251百万円の増加となりました。これは主に受取手形及び売掛金が25,485百万円、商品が9,352百万円増加したことによるものであります。

固定資産は70,425百万円となり、前連結会計年度末と比較して907百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産その他に含まれる建設仮勘定が1,528百万円、投資有価証券が1,996百万円増加し、建物及び構築物が914百万円、土地が1,366百万円減少したことによるものであります。

負債の部では、流動負債は160,260百万円となり、前連結会計年度末と比較して36,257百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が23,493百万円、短期借入金が11,968百万円増加したことによるものであります。

固定負債は27,673百万円となり、前連結会計年度末と比較して11,684百万円の減少となりました。これは主に社債が5,101百万円、長期借入金7,230百万円減少したことによるものであります。

純資産の部は70,198百万円となり、前連結会計年度末と比較して10,585百万円の増加となり、自己資本比率は27.2%となりました。

セグメントの業績につきましては、当社グループは、日用雑貨・化粧品等の卸売業を主たる事業とする単一セグメントであるため省略しておりますので、カテゴリー別および業態別の売上実績につきまして以下に記載いたします。

カテゴリー別売上実績

当第3四半期連結累計期間におけるカテゴリー別売上実績は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

カテゴリー	主要商品	当第3四半期連結累計期間	
		自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	前年同期比
			%
Health & Beauty	化粧品・装粧品・石鹸・入浴剤・ オーラルケア	170,537	106.3
トイレタリー	衣料用洗剤・台所用洗剤・食器用 洗剤・住居用洗剤・芳香剤・防虫 剤・殺虫剤・乾電池・記録メディ ア・照明用品・電気応用品・OA 用品・文具・食品・カー用品	135,857	102.2
紙製品	家庭紙・紙おむつ・ベビー用品・ 衛生用品・生理用品	111,303	101.4
家庭用品	台所用雑貨・住居用雑貨・生活用 雑貨・レジャー用品・園芸用品	41,735	103.4
ペット用品・その他	ペット用品・その他	100,550	104.5
	合計	559,985	103.8

業態別売上実績

当第3四半期連結累計期間における業態別売上実績は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

業態	当第3四半期連結累計期間	
	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	前年同期比
		%
ドラッグストア	265,509	105.2
ホームセンター	96,246	104.1
SM	66,676	98.3
ディスカウント	40,980	105.3
GMS	36,893	105.1
その他	53,677	101.2
合計	559,985	103.8

(注) 第1四半期連結会計期間より、業態別分類を一部変更しております。なお、前年同期比につきましては、前第3四半期連結累計期間の数値を組み替えて算定しております。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの主要な設備に著しい変動はありません。また、設備の新設、除却等の計画に著しい変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針

当第3四半期連結累計期間において、経営者の問題意識と今後の方針について、重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,417,840	17,417,840	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	17,417,840	17,417,840	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成30年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	17,417,840	-	7,026	-	30,306

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 752,500	2,002	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,646,700	166,467	-
単元未満株式	普通株式 18,640	-	-
発行済株式総数	17,417,840	-	-
総株主の議決権	-	168,469	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式752,500株には、当社所有の自己株式が552,300株、「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式が200,200株(議決権の数2,002個)が含まれております。なお、当該議決権の数2,002個は、議決権不行使となっております。
2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式が700株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数7個が含まれております。
3. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が31株、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式が50株含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式)株式会社あらた	東京都江東区東陽六丁目3番2号	552,300	200,200	752,500	4.32
計	-	552,300	200,200	752,500	4.32

(注) 他人名義で保有している理由等

保有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として200,200株拋出	資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海トリトンスクエア オフィスタワーZ棟

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役(社外)	-	宮本 芳樹	平成29年9月19日 (逝去による退任)

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性13名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,693	14,492
受取手形及び売掛金	82,212	107,698
商品	29,556	38,909
未収入金	2 23,939	2 23,717
繰延税金資産	885	494
その他	3,308	2,399
貸倒引当金	140	5
流動資産合計	153,455	187,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,829	20,914
土地	21,004	19,637
その他(純額)	7,414	8,677
有形固定資産合計	50,248	49,229
無形固定資産		
のれん	7	-
その他	3,569	3,439
無形固定資産合計	3,576	3,439
投資その他の資産		
投資有価証券	11,713	13,710
繰延税金資産	327	293
退職給付に係る資産	608	709
その他	3,073	3,072
貸倒引当金	28	28
投資その他の資産合計	15,694	17,756
固定資産合計	69,518	70,425
資産合計	222,974	258,133

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	76,579	100,073
短期借入金	27,270	39,239
未払法人税等	1,662	1,087
賞与引当金	1,573	738
その他	16,916	19,121
流動負債合計	124,003	160,260
固定負債		
社債	7,552	2,451
長期借入金	17,747	10,516
繰延税金負債	1,052	1,518
退職給付に係る負債	7,276	7,558
その他	5,729	5,629
固定負債合計	39,357	27,673
負債合計	163,361	187,934
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,220	7,026
資本剰余金	23,322	25,349
利益剰余金	29,765	33,868
自己株式	2,833	1,564
株主資本合計	55,474	64,680
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,558	5,906
為替換算調整勘定	29	23
退職給付に係る調整累計額	459	422
その他の包括利益累計額合計	4,129	5,507
非支配株主持分	8	11
純資産合計	59,613	70,198
負債純資産合計	222,974	258,133

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	539,598	559,985
売上原価	484,057	502,062
売上総利益	55,541	57,922
販売費及び一般管理費	49,525	50,994
営業利益	6,016	6,927
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	128	137
業務受託手数料	230	226
貸倒引当金戻入額	96	136
その他	459	441
営業外収益合計	920	947
営業外費用		
支払利息	339	250
売上債権売却損	91	114
その他	112	86
営業外費用合計	543	450
経常利益	6,393	7,424
特別利益		
固定資産売却益	50	358
投資有価証券売却益	0	20
負ののれん発生益	-	26
特別利益合計	50	405
特別損失		
固定資産売却損	305	2
固定資産除却損	14	10
減損損失	-	103
災害による損失	75	-
特別損失合計	395	117
税金等調整前四半期純利益	6,049	7,712
法人税、住民税及び事業税	1,687	2,178
法人税等調整額	490	326
法人税等合計	2,177	2,504
四半期純利益	3,871	5,207
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	10	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,881	5,205

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	3,871	5,207
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,225	1,348
為替換算調整勘定	61	3
退職給付に係る調整額	140	37
その他の包括利益合計	1,304	1,382
四半期包括利益	5,175	6,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,188	6,583
非支配株主に係る四半期包括利益	12	5

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるジャベルパートナーシップサービス株式会社がペットライブラリー株式会社の全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形割引高	130百万円	189百万円

2. 当社は、売上債権流動化を行っております。売上債権流動化にかかる金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
売掛金譲渡金額	37,009百万円	37,910百万円
債権譲渡に係る未収入金	9,009	6,165

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間にかかる四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間にかかる減価償却費(のれんを除く無形固定資産にかかる償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	3,308百万円	3,255百万円
のれんの償却額	219	7

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	468	30	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金
平成28年11月2日 取締役会	普通株式	442	30	平成28年9月30日	平成28年12月6日	利益剰余金

- (注) 1. 平成28年5月13日取締役会の決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。
2. 平成28年11月2日取締役会の決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月9日 取締役会	普通株式	521	35	平成29年3月31日	平成29年6月12日	利益剰余金
平成29年11月2日 取締役会	普通株式	581	35	平成29年9月30日	平成29年12月6日	利益剰余金

- (注) 1. 平成29年5月9日取締役会の決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金7百万円が含まれております。
2. 平成29年11月2日取締役会の決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金7百万円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の転換にともない、資本金が1,806百万円、資本剰余金が2,026百万円それぞれ増加し、自己株式が1,268百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、日用雑貨・化粧品等の卸売業を主たる事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	263円26銭	331円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,881	5,205
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,881	5,205
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,744	15,699
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	236円98銭	309円17銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	1,635	1,137
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 1株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

1株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数

前第3四半期連結累計期間 208千株

当第3四半期連結累計期間 202千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年11月2日開催の取締役会において、平成29年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に對し、当期中間配当を次のとおり支払う旨決議し、配当を行っております。

(1) 配当金の総額 581百万円

(2) 1株当たりの金額 35円00銭

(3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 平成29年12月6日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

株式会社あらた

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平野 洋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 戸津 禎介 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中川 満美 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あらたの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あらた及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。